

誰もが楽しくスポーツできるプログラムを



ユニバーサルスポーツワークショップ 実施報告書

2015年9月1日～3日

愛知県知多郡美浜町・日本福祉大学美浜キャンパス

同志社大学スポーツ健康科学部 藤田ゼミ

仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.

日本福祉大学スポーツ科学センター

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

0.はじめに



様々な社会的な障壁が考えられる中で、私たちナイスハート基金は、障害について、あるいは障害のある方について、スポーツや音楽などの親しみやすい切り口で、子どものときから共に体験する場をつくり、理解を深めていただく活動を行っています。

共に楽しみながら学ぶことのできる手法として、ワークショップに着目し、その考え方や活動の実際について多くのみなさまに知っていただくため、専門家を交えた研究会を組織し、障害のある方を対象とした活動をなさっている方を対象とした取組を行って参りました。

平成25年度には、全国的に展開をしている私たちの事業である「ふれあいのスポーツ広場」をベースとして、障害の有無に関わらず楽しみながら体験できるスポーツとして「ユニバーサルスポーツ」を、ワークショップの要素に取り入れ開発し、そのプロセスを通じて障害理解のための指導者育成に寄与しようという目的のもと、このプログラムを企て、福島県および宮城県内において、障害のある子どもたちを対象に楽しんでいただけるものをつくるため、共に学べる場として開催してまいりました。

今年度は新たに日本福祉大学の皆様に加わっていただき、愛知県の日本福祉大学のキャンパスにおいて実施し、地元の中学生のみなさんに体験をしていただきました。

最後になりましたが、この取組に助成をいただきました、社会福祉法人社会福祉事業研究開発基金に感謝申し上げますと共に、プログラムを監修いただきました、同志社大学スポーツ健康科学部教授 藤田紀昭先生、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. 佐藤一樹先生、日本福祉大学スポーツ教育センター 伊藤僚先生に御礼を申し上げます。

平成27年10月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

1.スケジュール

9月1日	内容	備考
12:45	日本福祉大学 美浜キャンパスに到着	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田 TEL : 0569-87-2211(代表) 日本福祉大学 リズム室or武道場or体育館
13:00	オープニング ・このプログラムの目的 ・自己紹介のセッション	
14:00	session A 活動紹介 ・同志社大学 ・仙台大学 ・日本福祉大学	
15:00	休憩	
15:15	session B ユニバーサルスポーツについて ・考え方の整理	
16:00	session C グループワーク ・小グループでスポーツプログラムのワークショップ	
18:00	終了／移動	
9月2日	内容	備考
8:45	日本福祉大学へ移動	日本福祉大学 体育館
9:00	session D グループワーク ・グループワークの続き	
11:00	・発表にむけた準備	
12:00	昼食	
13:00	session E グループ発表 ・討論をしたプログラムをシェア	
15:00	session F 全体のまとめ ・モデルプログラムづくりにむけた整理と振り返り	
17:45	終了／移動	

9月3日		内容	備考
7:00	朝食		
8:00	旅館出発		
10:00	スポーツ競技の体験と交流		日本福祉大学 リズム室or武道場or体育館
	・準備体操		
	・現行のふれあいのスポーツ広場プログラムより2競技紹介		
	・新規プログラムの紹介		
	(野間中学校と河和中学校の生徒 約12名)		
11:45	閉会		

2.このプログラムの目的

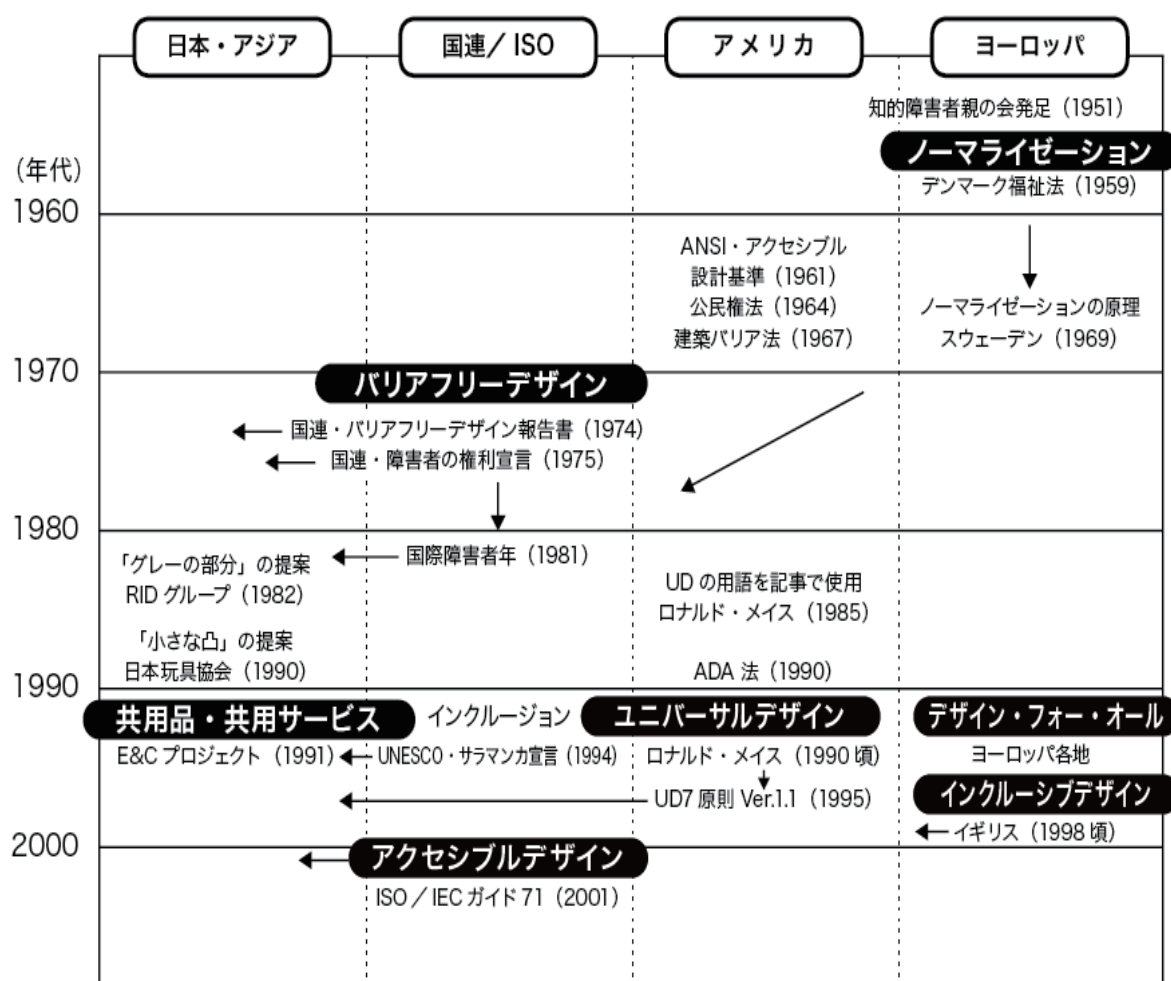
opening session

ナイスハート基金 鈴木 実

(1)ユニバーサルデザインについて

ノースカロライナ州立大学のユニバーサルデザインセンター所長であったロナルド・メイス（1941-1998）が1985年に公式に提唱した概念。「できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすること」が基本コンセプトである。デザイン対象を障害者に限定していない点が、一般に言われる「バリアフリー」とは異なる。

<http://www.ncsu.edu/ncsu/design/cud/>



※共用品推進機構ホームページより引用

(2)ユニバーサルデザインの原則

1. どんな人でも公平に使えること（公平な利用）

Equitable use

2. 使う上での柔軟性があること（利用における柔軟性）

Flexibility in use

3. 使い方が簡単で自明であること（単純で直感的な利用）

Simple and intuitive

4. 必要な情報がすぐに分かること（認知できる情報）

Perceptible information

5. うっかりミスを許容できること（失敗に対する寛大さ）

Tolerance for error

6. 身体への過度な負担を必要としないこと（少ない身体的な努力）

Low physical effort

7. アクセスや利用のための十分な大きさと空間が確保されていること
（接近や利用のためのサイズと空間）

Size and space for approach and use

The Center for Universal Design, NC State University による。

(3)「ふれあいのスポーツ広場」の経過

- 1981年（昭和56年） 国際障害者年の事業としてナイスハート基金の前身である国際障害者年全国推進協議会が実施。
- 1982年（昭和57年） ナイスハート基金設立。主たる事業として、年間3回程度を関東近隣にて実施。

単独開催による
ふれあいのスポーツ広場



- 1992年（平成4年） 自動車総連結成20周年記念事業として、組合員が参加しながら行う参加型福祉事業として実施。年間7会場。
- 1997年（平成9年） 自動車総連結成25周年記念事業として、東京都体育館において中央大会を実施。全国的な展開のはじまり。17会場において開催。この年からプログラムを抜本的に改正。エアロビック、フライングディスクの取組を始める。
- 2003年（平成15年） フライングディスクの県大会と同時開催のスタイルを島根県において実施。長野県および秋田県においても取り組む。

第1回
島根県障害者
フライングディスク大会
ふれあいのスポーツ広場



- 2004年（平成16年） 藤田紀昭氏（当時日本福祉大学教授）とのコラボレーションの取組を始める。静岡県島田大会。以来、年々拡大。

(3)「ふれあいのスポーツ広場」の経過

じゃんけんダンス
デビュー
平成17年度島田大会



2006年（平成17年） 藤田紀昭先生提案による、ユニバーサルスポーツプログラムとして、風船バレー等の競技がスタート。

2007年（平成19年） 障害者週間事業として、東北福祉大学において、ユニバーサルスポーツフェスタを開催。仙台大学との交流が始まる。

2011年（平成23年） 仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.との取組が始まる。

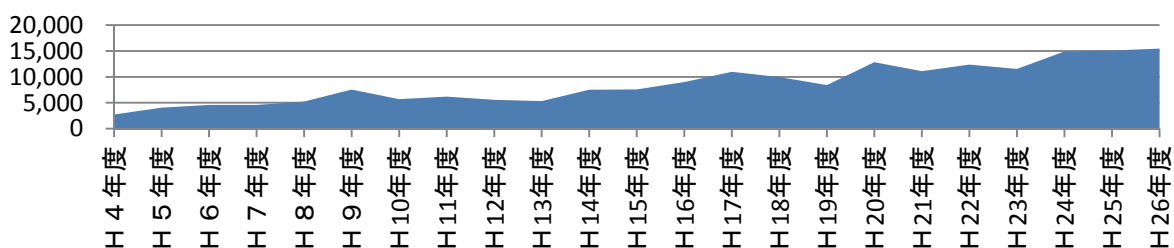
仙台大学
デビュー
平成23年度横浜大会



2012年（平成24年） 過去最大の38都市において開催。両大学ともに過去最大の参加実績。

2014年（平成26年） 過去最大38都市において開催。過去最多の15,994名の参加。

ふれあいのスポーツ広場参加者の推移



(4)このプログラムの目的

①ユニバーサルなスポーツプログラムの創造

- ・ 障害の有無に関わらず
- ・ 難しくなく
- ・ 安全で
- ・ 楽しむことのできる

②「ふれあいのスポーツ広場」へのプログラムとして取り組む

- ・ 平成28年度への取組として採用する

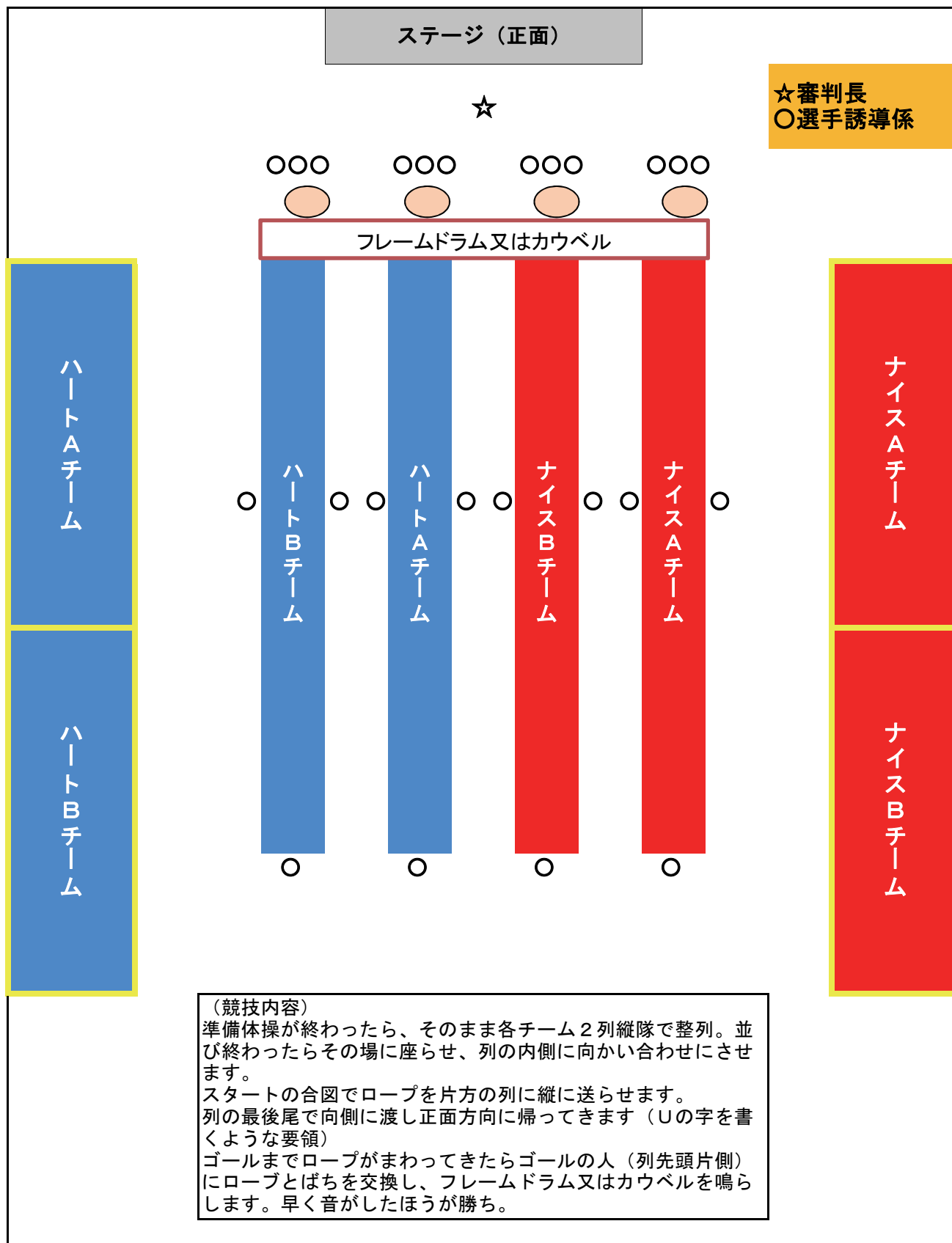
③障害のある子どもたちに、室内で楽しめるスポーツプログラムを提供する

- ・ 9月3日に愛知県美浜町立野間中学校と愛知県美浜町立河和中学校との交流会で実施する

※ふれあいのスポーツ広場 現在のプログラム

10:30	開会式
10:50	準備体操
11:00	第1競技 ロープ送り
11:20	第2競技 風船バレー
11:40	第3競技 大玉ころがし（又はリバース大玉ころがし）
12:00	休憩 昼食
12:30	アトラクション
13:00	第4競技 スポーツ競技団体による指導 エアロビック フライングディスク 同志社大 仙台大
14:00	閉会式
14:20	閉会

2-1. 第1競技 ロープ送り





事前にロープをよくほぐし、もつれないように準備しておく。



各チーム2列縦隊です。(準備体操が終わったらそのまま整列)
並び終わったらその場に座らせ、列の内側に向かい合わせにさせます。
なるべく隣との隙間を明けないよう、誘導してください。



スタートの合図で正面から見て右側の列からスタート。鈴を先頭に、右隣にロープを渡していく。

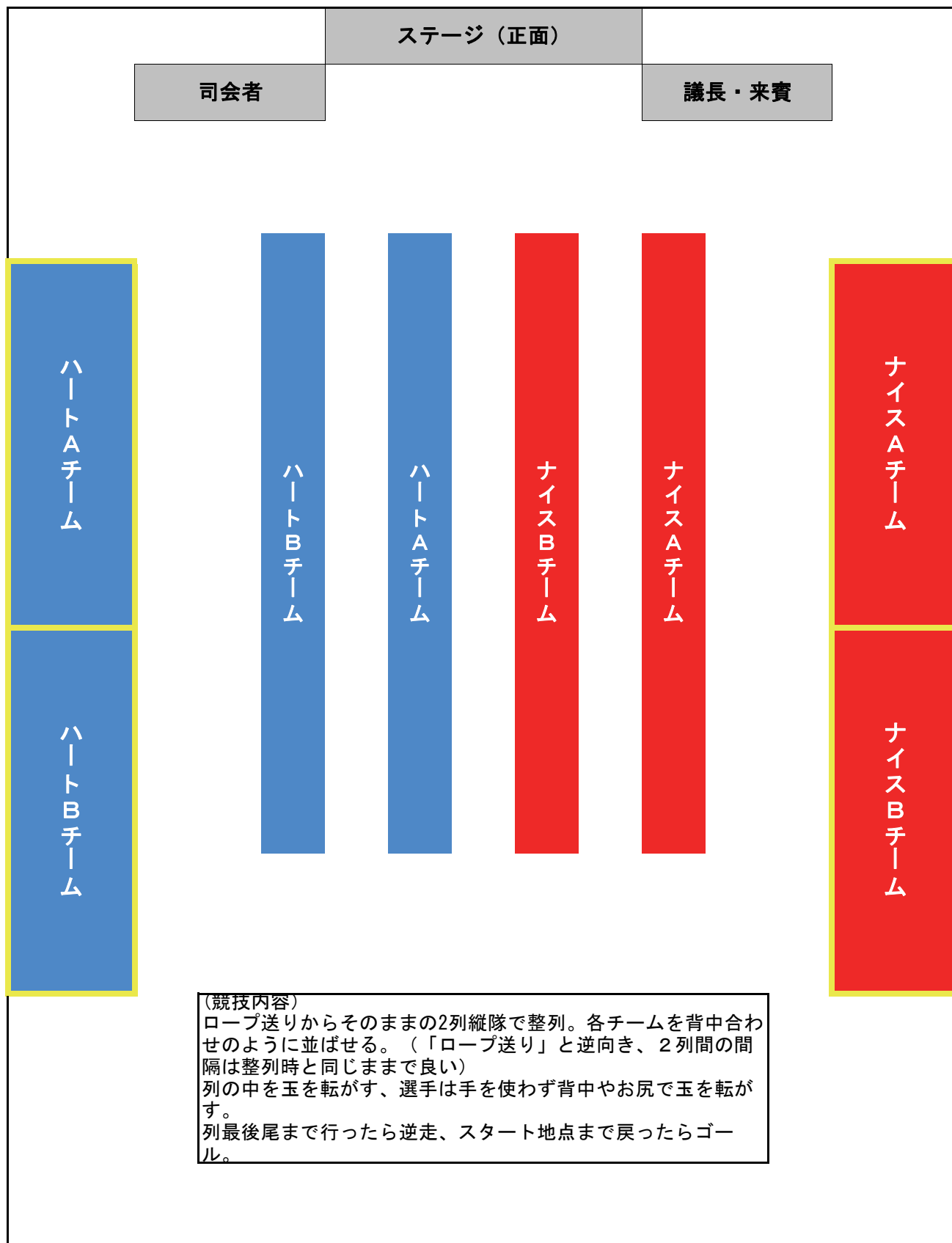


列の最後尾でUターン。実行委員のサポートが必要。



ロープの最後についているボールと、ばちを交換し、最後の選手がフレームドラム又はカウベルを鳴らしてゴール。

2-2. 第2競技 リバース大玉ころがし





各チーム2列縦隊、背中合わせのように並ばせます。

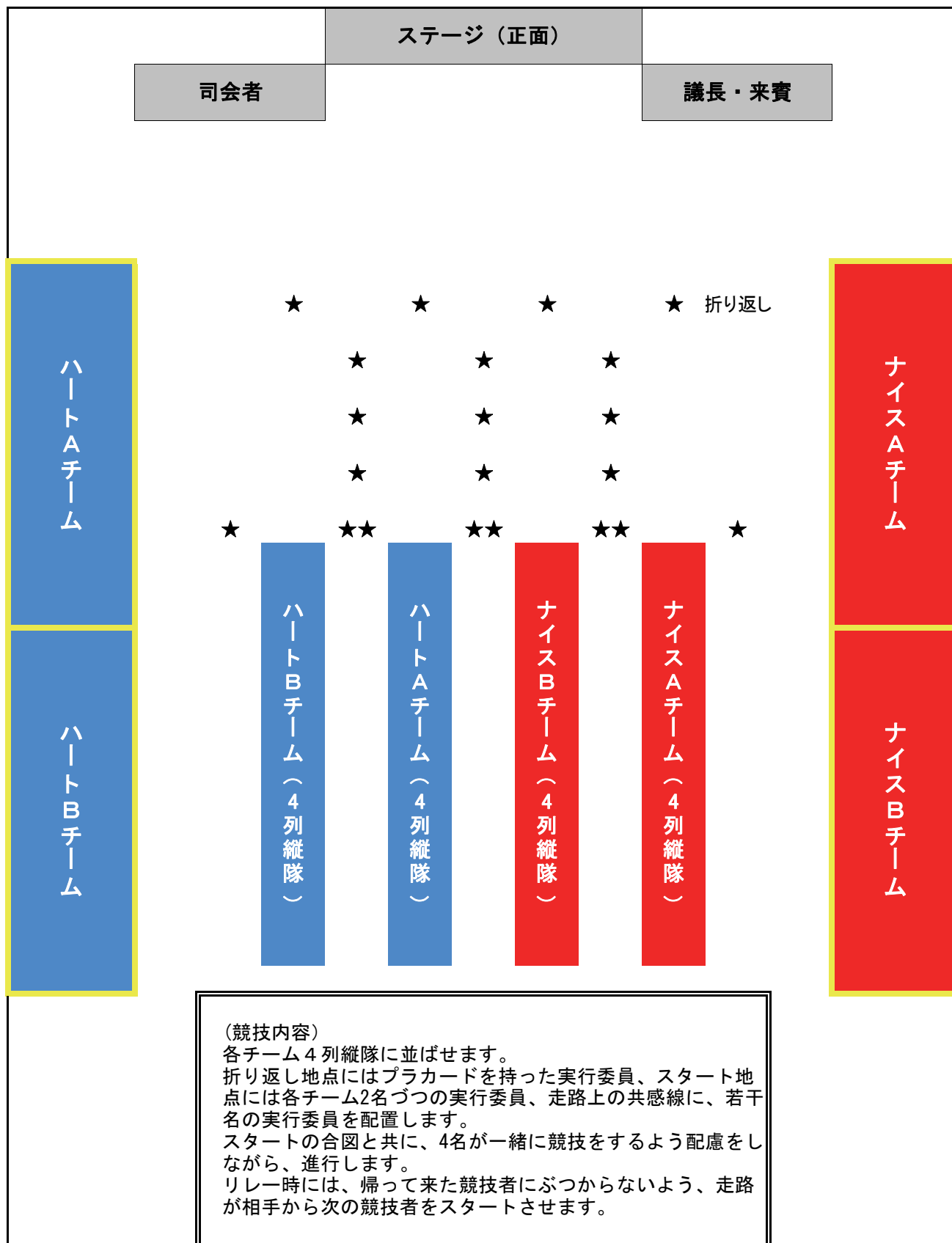


列の中を玉を転がす、選手は手を使わず背中やお尻で玉を転がす。



列最後尾まで行ったら、大玉を列の上に通していく。スタート地点まで戻ったらゴール。

2-3.第3競技 大玉ころがし





各チーム4列にて整列。整列後に座るよう誘導する。
大玉のリレーするときは危険なので、二人ずつ実行委員を配置する。終わった人を押し倒してしまわないよう注意する。



各チームの間にスタッフを配置し、ぶつからないよう注意する。

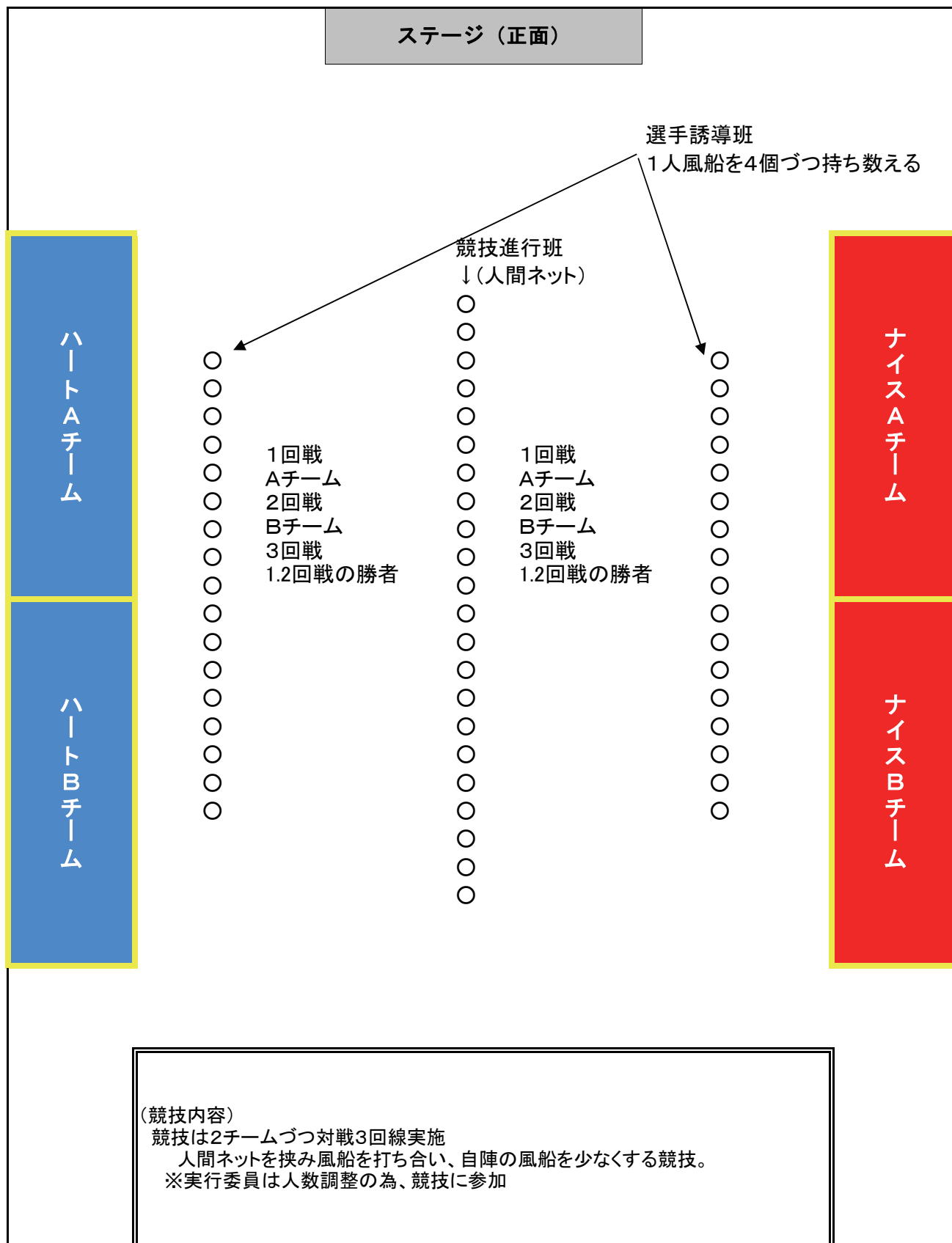


プラカードをもったスタッフが、ターンポイントをつくる。



ターンポイントより後ろに抜けてしまわないよう、スタッフを配置する。

2-4. 第3競技 風船バレー





紅白2チームを人間ネットを隔てて配置。
選手は風船を持ち待機。



相手のコートに風船を追い出していく。

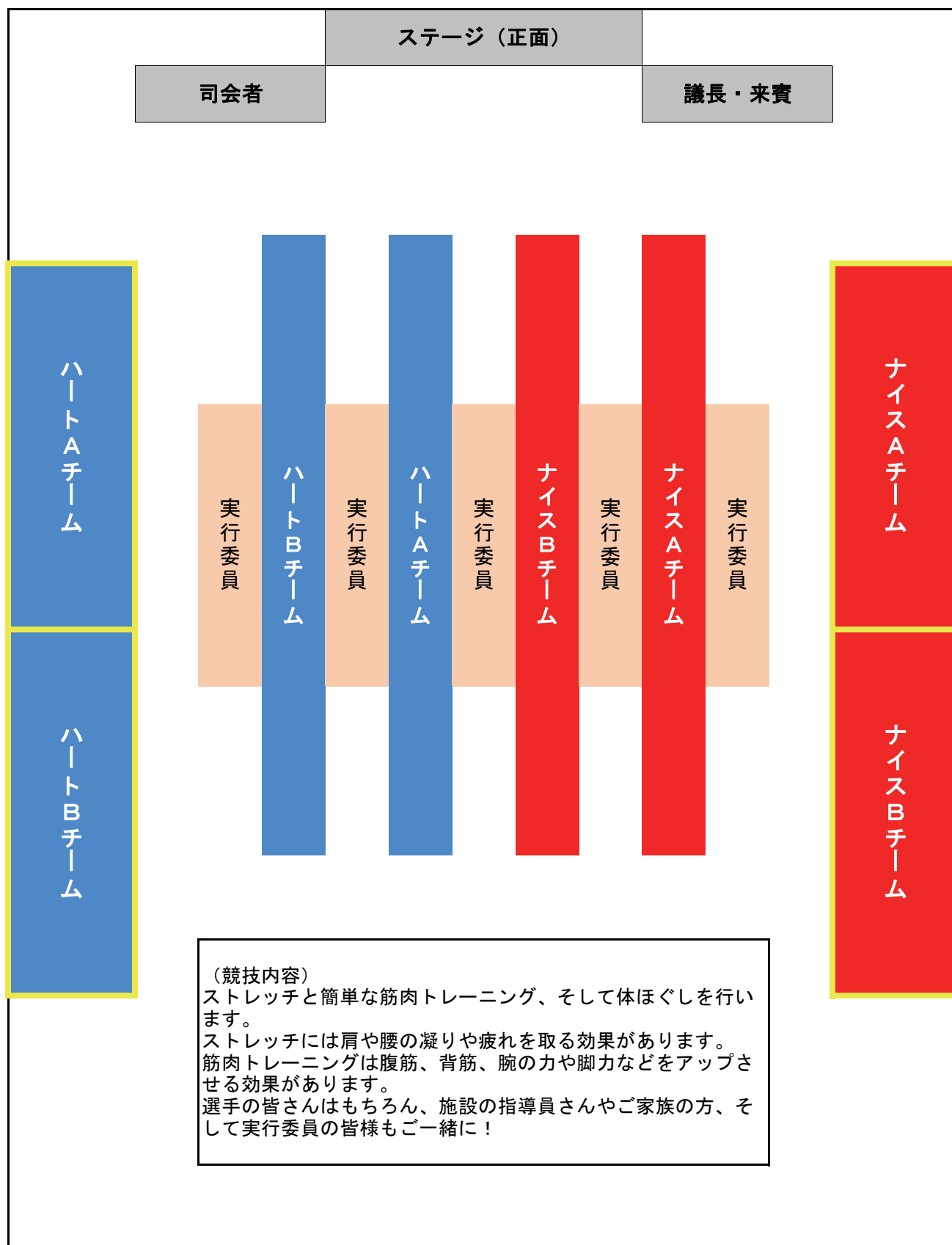


競技リーダーの指示で、大風船(緑色)1
つ、黄色を2つ投入。

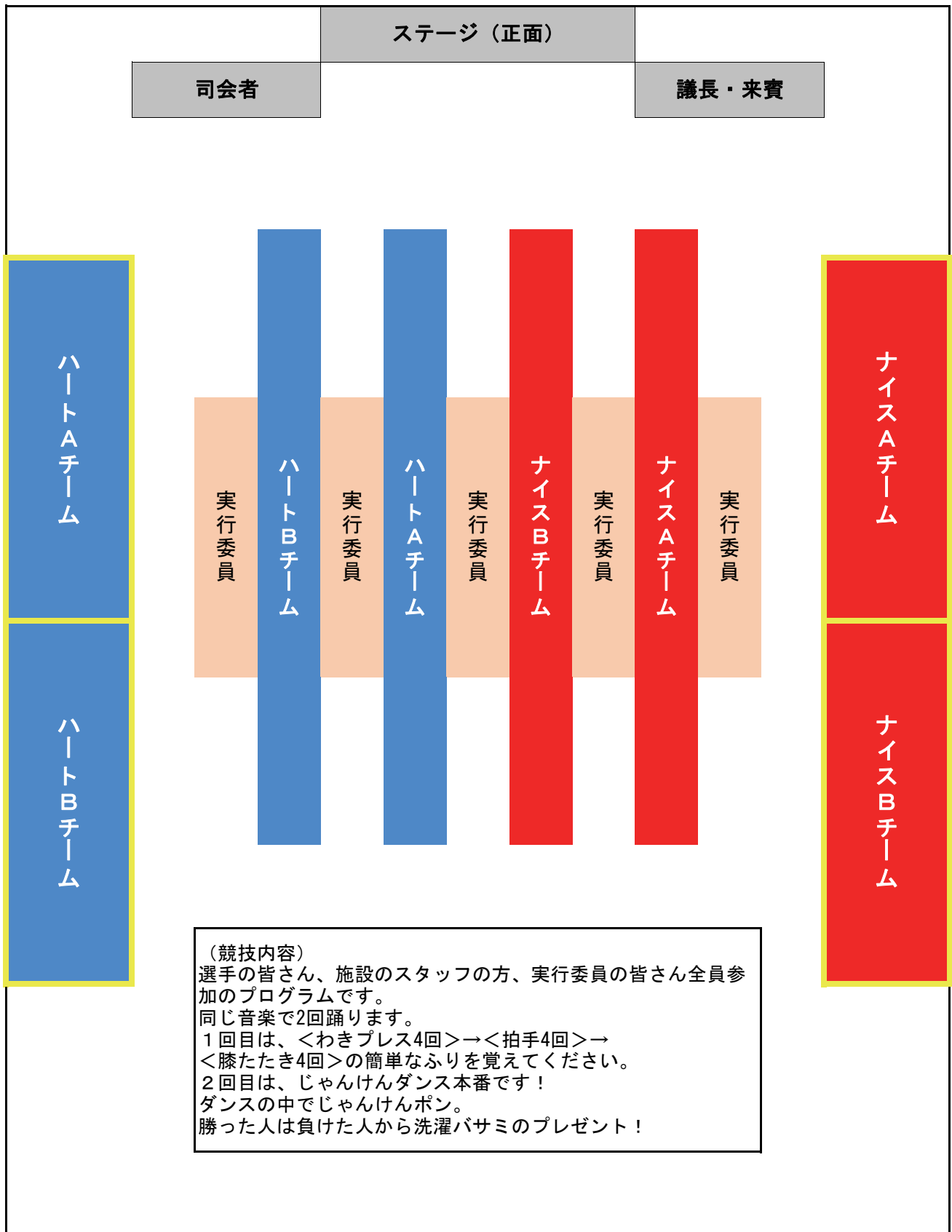


終了の合図で、選手は座る。風船を数え
るスタッフは、4つづつ風船を持ち整列。
大風船は、8個分の風船としてカウ
ント士、2人で持つ。
審判は、人数で数えて、座っていく。少
ない方が勝利。

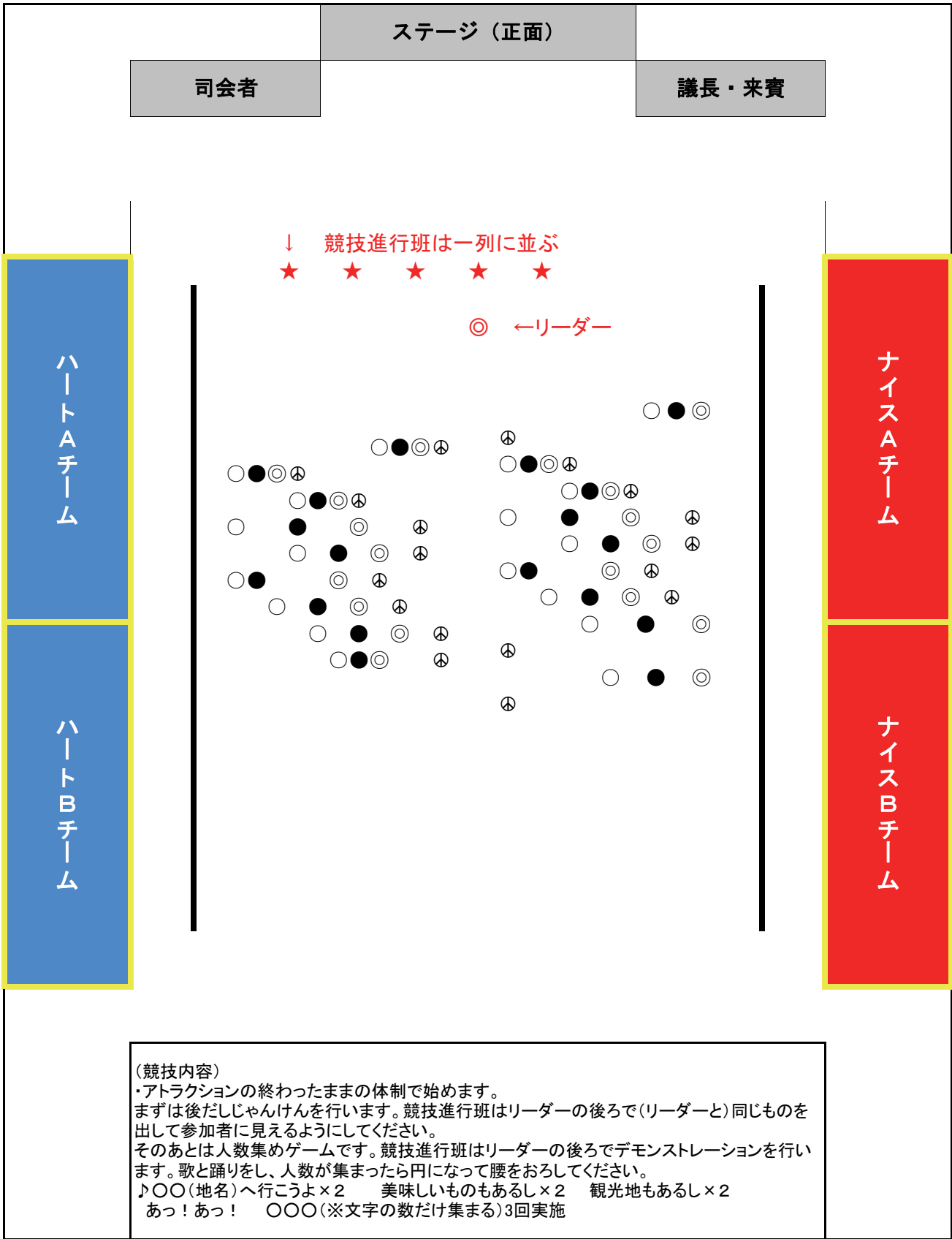
2-5. 第4競技 ストレッチ



2-6. 第5競技 じゃんけんダンス



2-7. 第4競技 ご当地ゲーム





第4競技「ご当地クイズ」は、簡単なゲームを行いながら、気持ちをほぐしていくための競技です。
はじめに、じゃんけんをしながら、リーダーの指示に従い、普通のジャンケンや、わざと負けるジャンケンなどを行います。
お手伝いいただく内容は、マニュアルをご参照いただき、また当日朝のミーティングでも詳しく説明させていただきます。

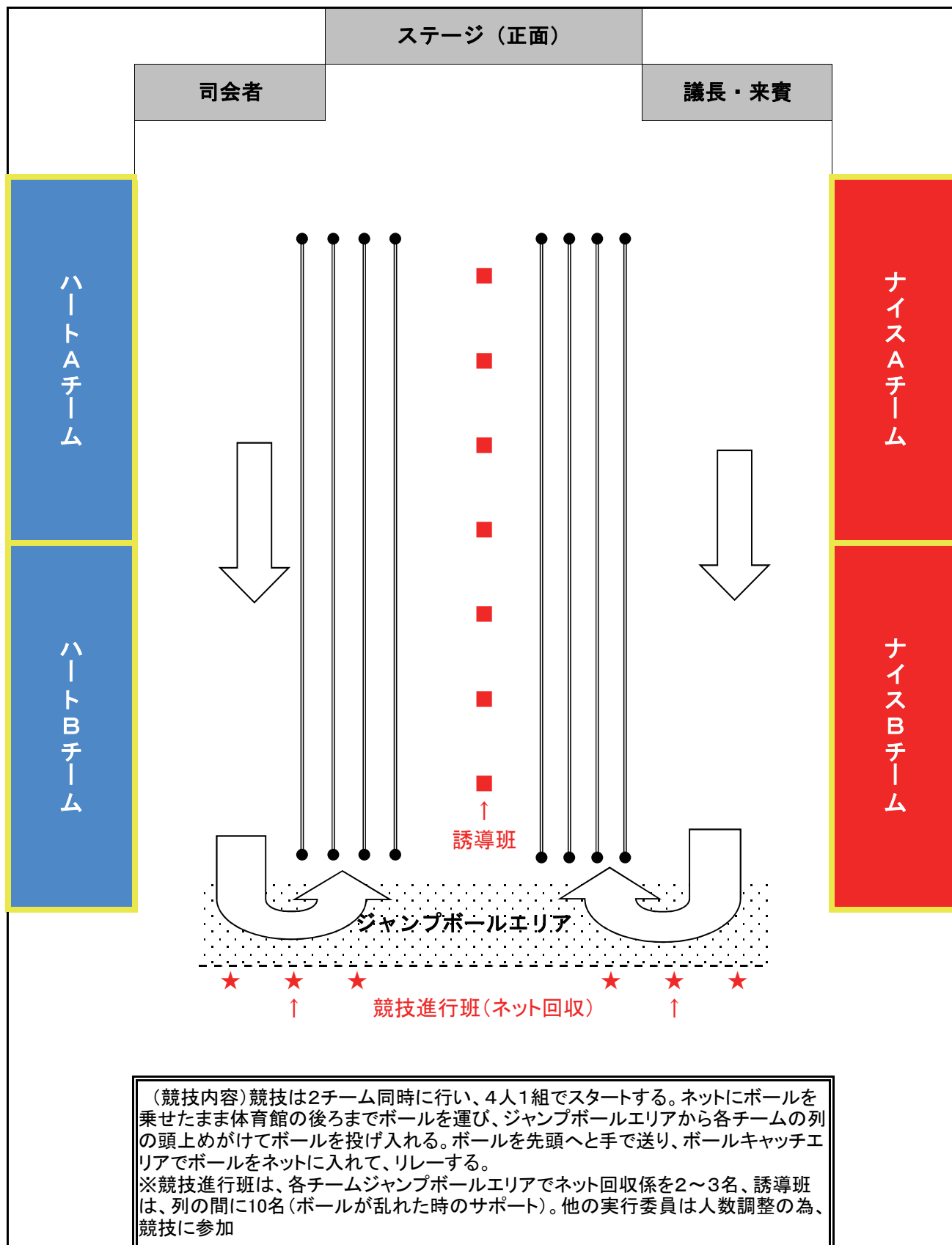


じゃんけんも分かりやすく図案化したポスターを使いながら進行いたします。



リズムにあわせて、体を動かしながら行うゲームもあります。

2-8. 第5競技 ジャンボールリレー





第5競技「ジャンボールリレー」は、大玉よりもずっと軽い「ジャンボール」を、4人1組でネットを使いリレーしていくゲームです。

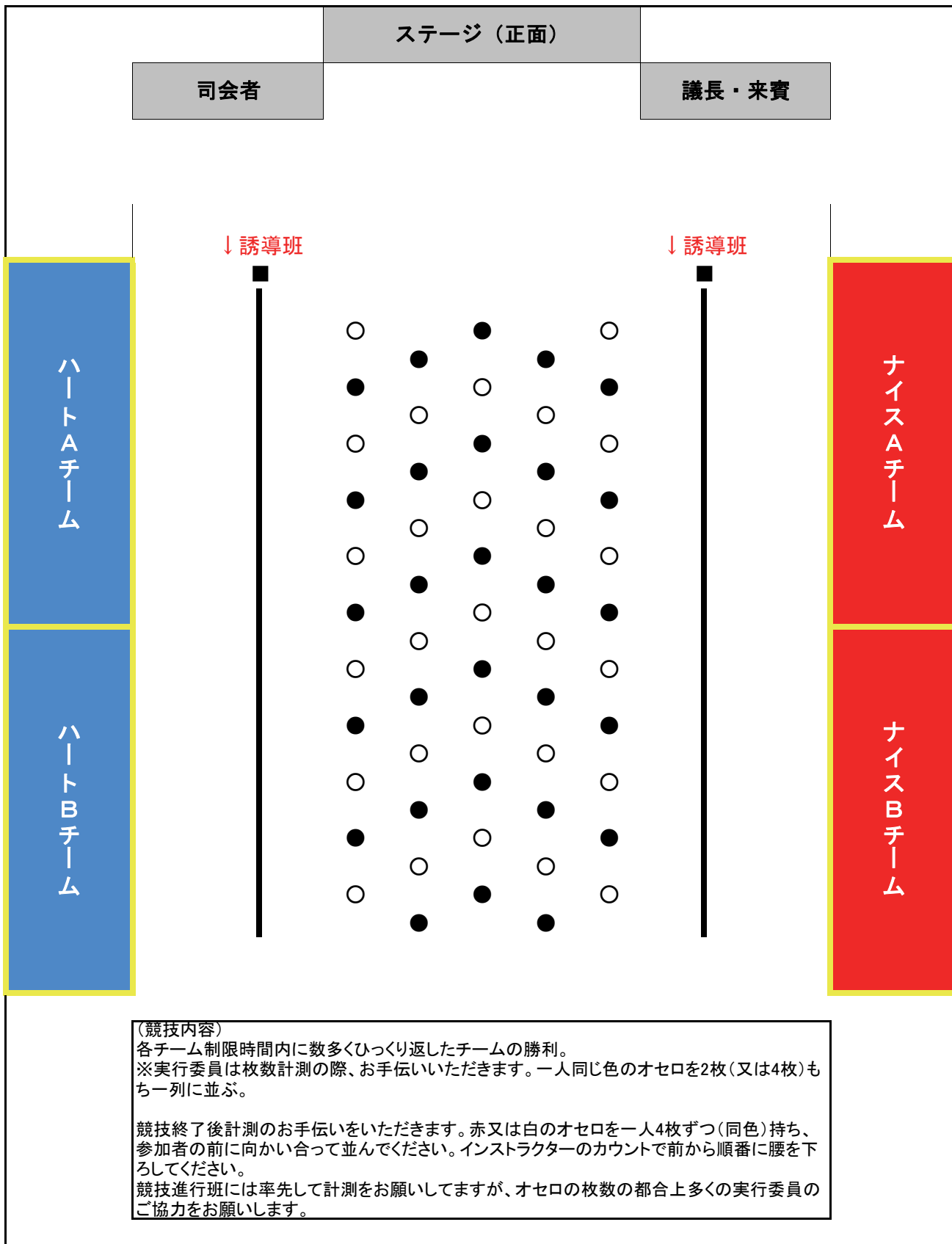


リレーをする際には、ネットに乗っているボールをチームの頭上に大きくジャンプさせ、頭上を手で送って前方へのネットへとリレーします。



実行委員の皆様には、リレーをする受け渡しの場面と、周辺のサポートをお願いいたします。

2-9. 第6競技 巨大才セ口





第6競技「巨大オセロ」は、フライングディスクを紅白に塗り、オセロゲームに見立てた競技です。
 まずはじめに、だいたい紅白が均等となるように、ディスクを敷きます。



競技開始と共に、ディスクを自チームの色にひっくり返していきます。
 自チームの色が多い方が勝ちです。



数を数える際には、風船バレーと同様に、4枚を一人ずつ持ち、審判のコールにあわせて数えていきます。

3.自己紹介

opening session

ナイスハート基金 高倉 和樹

(1)この3日間での約束事

①参加者誰もが自由に意見を言うことができ、自然に合意形成ができるために

- ひとの意見を否定しないということ
- 自分の意見を丁寧に説明すること

②参加者の誰もが楽しみながら参加できるように

- 人任せにせずに自ら行動すること
- 参加しづらい人に配慮すること

(2)ice break

ワークショップ的な手法で、心と身体をほぐしましょう

プログラムの内容は当日のお楽しみ。。。

(3)自己紹介

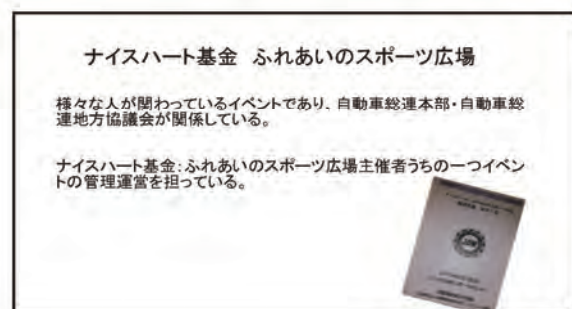
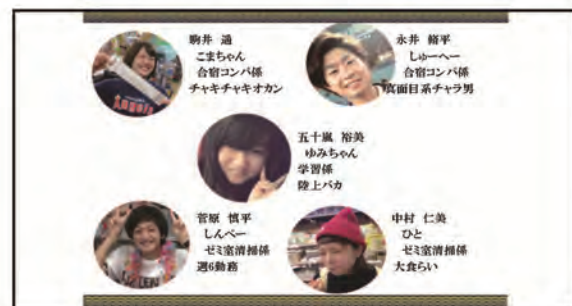
ワークショップ的な手法で、自己紹介を行います

プログラムの内容は当日のお楽しみ。。。

4.活動紹介

session A

(1)同志社大学スポーツ健康科学部



ナイスハートについて

自動車総連本部: 会社を超えた自動車関係(製造、販売、部品製造その他)の総合の中央連合組織であり春闘の相場作りに大きな影響を持っている。また国政選挙時に独自候補を擁立する。

自動車総連地方協議会: 自動車関係の組合の地方組織であり実行委員(ボランティア)として数十名から150名前後の人が参加している。

活動

当日の学生の仕事

当日の準備、準備体操(ラジオ体操を鏡状態で)、参加者のサポート、応援、記録、後片付けその他

ストレッチ及びじゃんけんダンスの補助



同志社クローバー祭

同志社クローバー祭とは・・・

大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指した学祭。

学生・教職員・市民が一体となって、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出する。



藤田ゼミ クローバー祭企画

「ミニパラリンピック!!」

- ・ 目標・・・障がい者スポーツを楽しみながら体験してもらえるプログラムを提供することで障がい者スポーツに対する理解を深めてもらう。
- ・ 内容・・・車いすバスケットボール
ポッチャ
スローム
シッティングバレー
障がい者スポーツについての掲示物
ブラインドサッカー

車いすバスケット

プロ選手との交流



一緒に体験できる

- ・ 障がい者スポーツに対する理解を深めることができる！
- ・ 様々な障がい者スポーツを体験することができる！
- ・ 実際にプロの選手と体験することができる！



競技・種目紹介

ポッチャ



スラローム



ポッチャとは、赤青のボール二色を白色のボールに近づけ、その近いボールの数で得点を決定し、勝負する競技で、スラロームとは、赤と白の棒を置きその間を何秒で通り抜けられるかを競うものである。

車いすバスケットボール



車いすバスケットとは名前の通り、通常のバスケットボールを車いすの乗って行うもので、多少のルール差はあるものの基本的には同じです。シュートがなんといつも難しい！！



授業(発表)

テーマ別発表

- ▶ 一人当たり15分～20分当たりの発表を行った。
- ▶ テーマは各個人自由に決めて行った。
- ▶ 発表形式も特に決まっておらず、レジюме or パワポで行った。

テーマ別発表 発表内容

- ▶ バラリン
- ▶ オースト
- ▶ ウィルチ



© TenorMagazine / iStockphoto

テーマ別発表
発表

▶ 佐藤

▶ 知的障

▶ プライ



テーマ別
発表

▶ 障がい

▶ ADHD

▶ 全健

▶ 障がい



インタビュー方法

- ・「障がい者のスポーツ社会化に関する研究」をテーマとしたインタビュー調査を行う。
- ・インタビュー調査を行う人数は各3人ずつ行う。
- ・インタビュアーへのアポからその内容の文字おこしまでの作業を一貫して個人で行う。
- ・アポ方法は直接施設に行き、関係を持っていく方法など
- ・インタビューの際はボイスレコーダーを使用し、記録に残し、そこから考察を行っていく。

障害者の方への質問

- ・基本的なプロフィール
- ・ライフイベント
- ・障害を持った時期や障害が原因で生じた苦難
- ・障害者スポーツに関する出来事
- ・障害者スポーツをするにあたって影響を受けた人物など

4回生の活動(卒業論文テーマ)

- ・障害者スポーツへの社会化～水泳競技者、水泳クラブに新目して～ 大西直人
- ・障害者スポーツへの社会化に関する研究～CPサッカー選手へのインタビュー調査を通して～ 川瀬奨太
- ・重度障害者のスポーツ環境の現状と実態～電動車いすホッケー選手へのインタビュー調査を通じて～ 井上友輔
- ・障害者スポーツへの社会化～アーチェリー競技について～ 石川海洋
- ・プロスポーツ選手のセカンドキャリアについての文献研究 三浦良徳



- ・スポーツ系学部学生のスポーツにおける体罰に対する意識に関する研究 日高健佑
- ・障害者のスポーツによる心境の変化～視覚障害者へのインタビューを通してスポーツをする前とした後の変化～ 福田悠也
- ・障害者スポーツへの支援の在り方に関する研究～シッティングバレーボール選手へのインタビュー調査より～ 菅野公美子
- ・車椅子バスケットボール選手が体験している困難と競技に取り組む意義について 六田真理子
- ・障害者スポーツの現状と課題～新しいユニバーサル・スポーツの提案について～ 吉沢駿







仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.

1. 仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act, について

我々Co-Actは日々、障害がある人もない人も老若男女問わず身体活動を積極的に行えるようにレクリエーション教室を行い、ニュースポーツやレクリエーションを指導し参加者と共に楽しんでいます。Co-Actの名前の由来はCoは「共生・相互・協調」を意味しており、Co-operativeで「協調的な、協力的な」を意味します。ActはActivities「心身の動き」の略となり、Cooperative Activitiesの頭文字をとってネーミングしました。1998年長野パラリンピックの年に結成され、今年で16年目をむかえます。

2. 発足からこれまでの経緯

仙台大学は平成7年に健康福祉学科が新設され、福祉に興味がある学生が多数入学。その後ボランティアをする学生が増加し、平成9年から知的障害者のレクリエーション教室のサポートや障害者水泳大会に障害者の方とチームを組んで参加するサポート、車いすマラソン大会の伴走のサポートなど大学としても障害者スポーツのサポートが増えるようになってきた。それらを活動している学生を集め、平成10年『Co-Act. 同好会』として公認される。その後、障害者スポーツ協会の運営補助、施設での活動依頼者社会福祉協議会からの活動依頼、などが増え、平成16年体育会『障害者スポーツサポート研究部Co-Act.』として公認され、現在部員6名で活動している。

3. 活動内容

① 仙団協レクリエーション教室:

18～50歳の知的障害者の方々にニュースポーツ教室と題したニュースポーツを自分たちで2～4つほどの競技を考え説明し、一緒に競技を行います。

・実際にやっている競技

- *ボール送り
- *ドッジビー
- *魚釣り
- *しっぽとり
- *障害物リレー

・などまだまだたくさんあります！



② ナイスハート基金:

ユニバーサルスポーツとして3種類の競技を行い、その3競技の指導をステージで行います。

- 第一競技 **ご当地ゲーム**
- 第二競技 **ジャンボールリレー**
- 第三競技 **巨大オセロ**

という順番で競技を行ないます。第一競技が始まる前にアイスブレイクとして、後出しじゃんけんとゲーバー体操を行ないます。



③ アサンテ夏祭り

体育館でいくつかのブースが設けられます。かき氷や焼きそば、わたあめなどの食べ物のコーナーや、カブトムシ、クワガタムシ釣りコーナーや、ステージでの太鼓やバンドなど発表を見たりするお祭りです。その一ヶ所の子供コーナーというブースで自分たちが考えた競技を子供たちに行ってもらい、楽しんでもらいます。

④ ウェルフェアスポーツ:

体育館にフライングディスク体験、トランポリン体験、足こぎ車いす体験、ビームライフル体験、ボッチャ体験、ニュースポーツ体験などのいくつかのブースが設けられ、その一ヶ所のニュースポーツ体験のブースで障害のある方でもできる簡単なニュースポーツを行い楽しんでもらいます。

⑤ ニコニコキッズ:

小学生までの子供たちとサッカーやかくれんぼ、鬼ごっこなどしたり、時期に応じて夏はキャンプをしてみんなで泊まったり、冬はクリスマス会をしてケーキを食べたり、プレゼント交換など様々なイベントを行っています。

5.ユニバーサルスポーツについて(1)

session B

藤田 紀昭 同志社大学教授

ユニバーサルスポーツとは...！？



同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科
教授 藤田紀昭



これってユニバーサルスポーツ？



ユニバーサルスポーツの条件

- -
 -
 -
 -
- } できるだけ左右されない



楽しみ(遊び)の要素は4つ

- ロジェ・カイヨワ(Roger Caillois)『遊びと人間』
- アゴン(競争)オリンピック・パラリンピック
- アレア(偶然)じゃんけん・くじ
- イリンクス(めまい)トランボリン・パラシュート
- ミミクリー(模倣)ダンス・ものまね
- 一般のスポーツでは速さ・力強さ・知的能力が大きく影響する
- 先ほどのゲームにアレアの要素を加えると...



ロープ送り



- 誰でも参加できる
- アゴンの要素がやや強い
- 腕だけ・自分の体の幅
だけしか動かせない→
アゴンの要素を弱めて
いる

ジャンボールリレー



5.ユニバーサルスポーツについて(2)

session B

藤田 紀昭 同志社大学教授

風船バレー・巨大オセロ



じゃんけんダンス



スポーツは無尽蔵に創れる する・見る・支える・創るスポーツ

- 対象者の特徴や実施場所等を考慮したうえで自ら考え出す
- 似たようなものでも対象者、環境により、やり方用具の工夫で全く違ったものに
- スポーツやゲームを数限りなく創り出すことが可能
- 何千年の時を経ても毎日、毎日、全く違った楽曲が作られているのと同じ



新しいスポーツ創りのポイント1

取り組む内容

- 目的は？
 - ウォーミングアップ、友達づくり、体力づくり、発達を促す、その時間を楽しむ など
- 対象者の特徴は
 - 障害の内容、年齢(生活、発達年齢)、性別、人数 など
- 柔軟な発想
- 実施場所の環境(予算)
 - 広さ、使える用具、その他の環境
- 実施時のスタッフ体制参加者の参加形態
- スポーツへの動機づけ
 - 自己有能感、自己効力感・自己決定感、受容感、知的好奇心への刺激
- できることを生かす

10

	視点	考え方(卓球の場合)
転用	他の使い道、新しい用途は	・ラケットはボールを打つのではなく叩く道具 ・卓球台と卓球ボールでビリヤード
応用	他からアイデアを借りたらどうか、他に似たようなものはないか、真似	・卓球台上にゴールを作りゴールした方が勝ち ・バドミントンコートを使って、ラケット・ボールは卓球で卓球子テニス
変更	変えたらどうか、意味、色、動き、形	・卓球台の上でふうせんバレーボール ・ボール色を編み物にして回転をわかりやすく
拡大	何かを付け加える、回数を増やす、長くする、時間を増やす	・コートを手で大きくフロアでやる ・ラケットを大きく、2バウンドでもOK
縮小	小さく、軽く、短く、圧縮、省略	・子どもでも出来るように卓球台の足を短く ・障害の重い人側のコートは小さくする
代用	他の材料、他の場所、代用品、動力	・ラケットをうちわにする ・会議用テーブルを台にしてネットは辞書で
再配置	順番を変える、要素を変える、	・ラリーが長く続いた方が勝ち ・ボールをより高く相手のコートに返した方が勝ち
逆転	順番、役割、基準、勝敗、上下逆	・ネットの下をくぐるようにする ・ゴロで返す。ボールのパウンド数を競う
結合	混合する、組み合わせ、障害の有無	・バレーボールのように6対6 ・障害のない人とある人のダブルス

11

新しいスポーツ創りのポイント2

取り組む姿勢

- 一人で悩まない
→チームで取り組む
- 出た意見は否定しない
→否定ではなくその上をいく創造
- 考えてばかりじゃダメ
→実際にやってみる
- 最初からうまくいくはずがない
→トライアンドエラーの繰り返し
- 正しい方法はない
- できるだけいい方法を見つける



6.グループワーク

session C～session F

(1)テーマ 「中学校の運動会を想定したユニバーサル競技」

学校の想定	中学生10名 障害のある子も普通学級に通学 特別支援学級から程度が重度の子の通級あり
競技の内容	a. クラス対抗の団体競技

(2)考え方のヒント

- a. 既存の競技をカスタマイズしていく
 - ・ 課題／非ユニバーサルな部分の抽出
 - ・ 課題への対応によるユニバーサル化
- b. ユニバーサルな想定から競技を形作る
 - ・ 共通して参加し楽しむことのできる事柄を抽出
 - ・ 出てくる課題への対応と規模を広げていく

7.モデルプログラム

美浜町特別支援学級交流(美浜町立野間中学校と美浜町立河和中学校)

(1)opening 10:00～10:10

a. 美浜町立上野間小学校校長 石橋 信幸 先生

(美浜町特別支援学級交流会)

b. ラジオ体操

指導：同志社大学スポーツ健康科学部/仙台大学障害者スポーツ研究部Co-Act.

c. アイスブレイク～簡単なゲーム

指導：仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.

(2)第1競技 10:20～10:35

「コロコロあまちゃん旅に出る」

指導：同志社大学スポーツ健康科学部/仙台大学障害者スポーツ研究部Co-Act.

パラシュートを広げて、そこに投げ込まれたボールを、中央の穴にボールを落としていくゲームです。あまちゃんの音楽に合わせて、中学生も大学生も先生も一緒になって上下にパラシュートを動かし、右に左に走り出しました。はしゃぎながら走り回る子供たちが競技を盛り上げてくださいました。



(3)第2競技 10:45～11:10

「はこべ!!めだまおやじ!」

指導：同志社大学スポーツ健康科学部/仙台大学障害者スポーツ研究部Co-Act.

「ジャンボールリレー」の応用として考えられました。平均台やパイロン等、行く先々に障害物が立ちほだかります。リレーの最後にジャンボールをネットを使って高く放り投げると、歓声がどっと沸きました。



(4)第3競技 11:10～11:30

「じゃんけんだんす」

指導：同志社大学スポーツ健康科学部

ジャンケンダンスでは、様々な人たちとペアになり、軽快なリズムに合わせてジャンケンを楽しむゲーム。



(5)おわりの会 11:30～11:40

記念品贈呈

解散

8.収支決算書

(1) 収入

	助成金収入	(福) 社会福祉事業研究開発基金	400,000	1	400,000
	自己資金				490,384
収入合計					890,384

(2) 支出

	旅費交通費	講師旅費/宿泊費等			782,850
	通信運搬費	資料送付			10,851
	保険料	行事保険料			10,851
	会議費	弁当代			49,760
	消耗品費	ワークショップ用品費			36,072
支出合計					890,384